

防災訓練の結果の概要（個別訓練）

1. 訓練の目的

本訓練は、「濃縮・埋設事業所 埋設事業部 原子力事業者防災業務計画」に基づき実施する個別訓練であり、訓練を繰り返し行うことにより、手順書等の適用性や個々の知識・対応能力の習熟を目的としている。

2. 実施日および対象施設

(1) 実施日

2017年5月31日（水）～2018年2月22日（木）

(2) 対象施設

廃棄物埋設施設 他

3. 実施体制、評価体制および参加人数

(1) 実施体制

訓練毎に実施責任者を設け、実施担当者が訓練を行う。

(2) 評価体制

定められた手順書等に基づき、各班の対策活動（通報連絡、モニタリング活動、避難誘導、現場応急対策）が実施できるかを実施責任者が評価する。

(3) 参加人数

「添付資料」のとおり。

4. 防災訓練のために想定した原子力災害の概要

(1) 通報訓練

- ・ 原災法第10条および第15条事象に至る原子力災害を想定した。

(2) 救護訓練

- ・ 管理区域内にて作業員が転倒し汚染したことを想定した。
- ・ 地震発生により避難中の従業員が負傷したことを想定した。

(3) モニタリング訓練

- ・ 操業中における構内輸送車両の衝突事故により車両が横転する事象を想定した。

(4) 避難誘導訓練

- ・ 低レベル廃棄物管理建屋における廃棄体取扱中での廃棄体落下事象を想定した。
- ・ 廃棄物埋設施設における廃棄体取扱中での廃棄体落下事象を想定した。

(5) その他必要と認める訓練

① 廃棄体取扱い中のトラブル等対処訓練

- ・ 廃棄体落下および構内輸送車両横転した際の廃棄体損傷事象を想定した。

② 放射線防護服脱着・汚染サーベイ訓練

- ・ 廃棄体落下および構内輸送車両横転した際の廃棄体損傷事象を想定した。

③放射能影響範囲推定・評価訓練

- ・ 廃棄体落下事象に伴い放射性物質が環境中に漏えいし拡散したことを想定した。

5. 防災訓練の項目

個別訓練

6. 防災訓練の内容

- (1) 通報訓練
- (2) 救護訓練
- (3) モニタリング訓練
- (4) 避難誘導訓練
- (5) その他必要と認める訓練
 - ①廃棄体取扱い中のトラブル等対処訓練
 - ②放射線防護服脱着・汚染サーベイ訓練
 - ③放射能影響範囲推定・評価訓練

7. 訓練結果の概要（添付資料）

(1) 通報訓練

- ・ 警戒事態該当事象、原災法第10条および第15条事象発生を受けて、所定様式にて通報文を作成するとともに、社外関係機関への通報連絡に係る対応を実施した。

(2) 救護訓練

- ・ 傷病者に関する情報収集および社外関係機関への通報連絡を実施した。
- ・ 社内の医師不在時の中で傷病者の状態観察を行うとともに、社外医療機関の指示のもと、必要な処置を行い、医療機関への引渡しに関する対応を実施した。

(3) モニタリング訓練

- ・ 立入制限区域の設定に必要な資機材の準備から設置までの対応、線量およびダスト測定に必要な資機材準備からサンプリングに係る対応について訓練を実施した。

(4) 避難誘導訓練

- ・ 作業員・見学者等の点呼確認、避難誘導に係る対応について訓練を実施した。

(5) その他必要と認める訓練

①廃棄体取扱い中のトラブル等対処訓練

- ・ 事象収束に向けた現場対策活動（廃棄体の養生作業 等）に係る実働訓練を実施した。
- ・ 屋内に放射性物質の閉じ込め作業に係る水平シャッターの閉操作等の訓練を実施した。

②放射線防護服脱着・汚染サーベイ訓練

- ・ 発災事象直後の現場状況から放射線防護服装着の選定および放射線防護服の適切な装着に関する訓練を実施した。
- ・ 防護服を着用した状態で、ポータブル発電機の起動訓練を実施した。

③放射能影響範囲推定・評価訓練

- ・ 廃棄体の性状を基に想定事象に対応する放出量の算出および放出源情報（場所、高さ、放出量）等から大気拡散による濃度および線量の評価訓練を実施した。

8. 訓練の評価

各個別訓練について定められた手順どおりに訓練が実施され、対応者の習熟を図れた。

9. 今後の原子力災害対策に向けた改善点

訓練毎の今後に向けた改善点は添付資料のとおり。

〈添付資料〉

個別訓練の概要

以 上

個別訓練の概要

訓練項目	実施日	実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者	参加人数	実施結果	今後の原子力災害対策に向けた改善点
通報訓練	2018. 1. 31	①本部事務局班長 ②本部事務局員	10名 (当社社員)	・EALの導入や通報様式の変更により所定時間内に通報連絡できたものの、一部通報様式の運用誤りや記載内容に不備があった。	・通報様式の運用方法および様式記載例をより明確にし、教育や個別訓練を通じて理解度を深めていく。
救護訓練	2017. 9. 15	①救護班長 ②救護班員	11名 (当社社員)	・傷病者に関する情報収集、社内外関係機関への通報連絡および救護活動(応急処置・搬送)を実施した。	・より厳しい条件設定のもと習熟度を高め、個々の対応能力および班員との連携強化を図っていく。
	2017. 12. 11	①救護班長 ②救護班員	6名 (当社社員)		
モニタリング訓練	2017. 12. 26	①放射線管理班長 ②放射線管理班員	4名 (当社社員)	・想定事象に基づき、立入制限区域設定および線量、ダスト測定を実施した。	・強風対策として新たに購入した資機材の使用方法について、要員の定着化を図っていく。
避難誘導訓練	2017. 9. 15	①総務班長 ②総務班員 ③放射線管理班員 ④運転管理班員	13名 (当社社員)	・避難を必要とする人の居場所、気象条件、汚染のおそれを考慮した避難経路の確認等について、避難誘導訓練を実施した。	・通信連絡手段として、PHS・無線機があるが、これらが通じない場所においても連絡できるよう現場携帯電話を配備する。
	2018. 2. 22	①総務班長 ②総務班員	8名 (当社社員)	・PHS、無線機が通じない場所での連絡手段の確保に問題があった。	

訓練項目	実施日	実施体制 ①実施責任者 ②実施担当者	参加人数	実施結果	今後の原子力災害対策に向けた改善点
廃棄体取扱い中の トラブル等対処訓練	2017. 11. 29	①設備応急班長 ①運転管理班長 ①放射線管理班長 ②設備応急班員 ②運転管理班 ②放射線管理班	21名 (当社社員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事象発生時の初動対応、防護服脱着等の要員の対応能力・習熟について確認した。 ・ 廃棄体内容物が漏えいした際の応急措置として廃棄体の養生方法について、検証および養生訓練を実施した。 ・ 廃棄体の状態（縦置き・横置き）のいずれにおいても、ロープの締め付けやすい結び方について、検証しておく必要があった。 ・ 資機材が大きいと養生に無駄な動きが発生するため、廃棄体1本分を養生できるサイズを予め準備しておく必要があった。 ・ 水平シャッターの手動開放について、対応能力について確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 廃棄体の状態（縦置き・横置き）に応じたロープの結び方の効果的な方法について検証する。 ・ 廃棄体1体のみを養生する際の資機材についても検討し配備する。
	2018. 1. 18	①設備応急班長 ②設備応急班員	6名 (当社社員)		
	2018. 1. 30	①運転管理班長 ②運転管理班員	7名 (当社社員)		
放射線防護服脱着・汚染サーベイ訓練	2017. 5. 31	①放射線管理班長 ②放射線管理班員 ②設備応急班員	5名 (当社社員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業員の放射線防護服の選定や装着方法・手順について確認した。 ・ 測定装置の使用法およびその取扱いならびに測定方法について訓練を実施した。 ・ 防護服のサイズについて、体格の大きい作業員が窮屈そうに作業していたことから、適切なサイズを使用する必要があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防護服の配備サイズについて、適正なサイズで活動できるよう、種々のサイズを配備する。
放射能影響範囲推定・評価訓練	2018. 1. 25	①放射線管理班長 ②放射線管理班員	4名 (当社社員)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 放出源情報および気象条件を元に、放射線影響範囲の推定・評価等を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訓練を重ね、個々の知識・対応能力の維持・向上を図っていく。